

改善報告書

令和元年 7 月 11 日

1. 大学名：奥羽大学

2. 認証評価実施年度：平成 28 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目 2-1-の指摘

○歯学部歯学科の収容定員充足率は、0.7 倍未満であるため改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2-1-について

(改善の経過)

収容定員に沿った適正な学生数の維持を図るため、歯学部歯学科の実状に応じた改善に取り組んでいる。

平成 23(2011)年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に続く東京電力福島第一原子力発電所(以後「原発」という)の事故により、飛散した放射能物質は福島県に甚大なる被害を及ぼし、その影響は現在も続いている。福島県に在る奥羽大学では、原発事故直後、学生の他大学への転学者が続出するとともに、入学者においても大幅な減少が続いていることから、適正な学生数を確保するため、次の取り組みを行っている。

1) 編入生の受け入れ

定員未充足の学年に対して編入生を積極的に受け入れている。これには、第 2 学年から入学する制度と、他大学歯学部から相当する学年に転入する制度があり、本学の教育環境で歯科医師を目指す学生を支援している。【資料 2-1-01】

2) 経済的支援(特待生制度)

放射能の風評に負けない魅力づくりの取り組みに、就学 6 年間の経済的支援がある。それは授業料相当額を奨学金として給付する特待生制度である。この制度は、原発事故に由来して福島県から若者が県外に流出するのを止めて福島県の復興に寄与するとともに、本学の入学定員の充足率を高めることを目的としている。平成 27(2015)年度に制定して以来、多くの特待生を受け入れている。【資料 2-1-02】

3) 高校訪問

歯学部における教育目的が歯科医師の養成であることから、最新の知識や技術を学修できるよう教育改革に取り組んでいる。その取り組みを高等学校の進路指導の先生方に広く理解いただくため、教員が積極的に高校訪問している。【資料 2-1-03】

4) 地域交流事業

将来の歯科医師を目指す人材を育成することを目的に、高校生への大学訪問を受け入れるとともに、地域医療体験セミナーに参加して本学を訪れた高校生に歯科医師の魅力を伝えている。また、中学生の職場体験学習や上級学校訪問を受け入れている。地域交流事業として、小・中学校、地方自治体、地方新聞社などとの交流を深め、歯科医師の仕事の説明や本学の教育環境の見学会を催し、将来の受験生確保に向けた取り組みを行っている。ま

た、地域の各種事業への教員派遣や学生ボランティア活動などの専門性を活かした社会貢献を通して知名度の向上に努めている。【資料 2-1-04】【資料 2-1-05】

5) 広報活動

体験学習を取り入れたオープンキャンパスや随時実施する個別見学相談会を開催している。本学ホームページの充実にくわえ、PR動画のテレビ放映、ラジオ、鉄道列車内広告など各種媒体を用いて活発に広報活動を行っている。【資料 2-1-06】【資料 2-1-07】

(結果及び今後の計画)

改善に向けた取り組みにより、歯学部歯学科における収容定員の充足率は徐々に向上しており、これまでの改善計画には一定の効果があるといえる。しかし、平成 31(2019)年時点においても収容定員を充足するまでには至っていない。そこで、今後は現在進行中の教育改革を着実に、かつ早急に実行することで学習の成果を上げ、収容定員充足率の改善を図る計画である。

5. エビデンス (根拠資料) 一覧

【資料 2-1-01】 入学者数・充足率の年次推移

【資料 2-1-02】 特待生制度の経済支援

【資料 2-1-03】 歯学部長高校訪問日程表

【資料 2-1-04】 主な地域交流実績 (平成 27 年 11 月～平成 30 年 11 月)

【資料 2-1-05】 中学生上級学校訪問・職場体験学習 (平成 28 年度～平成 30 年度)

【資料 2-1-06】 オープンキャンパス

【資料 2-1-07】 個別見学